

平成20年1月31日

各 位

## NISグループ株式会社

(東京証券取引所第一部：8571)

### 中期経営戦略の見直しに関するお知らせ

当社は、昨年12月10日にお知らせいたしました米国の有力プライベート・エクイティ投資会社TPGとの戦略的資本・事業提携を踏まえて、このたび、昨年5月8日に策定いたしました中期経営戦略を見直し、当社ホームページ (<http://www.nisgroup.jp/>) に掲載いたしましたので、お知らせいたします。このたび見直しいたしました中期経営戦略のポイントは以下のとおりです。

#### 経営改革プログラムについて

##### 1. 資本増強

- ・TPGより当社単体へ200億円、グループ合計で300億円強の資本増強

##### 2. 追加引当金の計上と減損処理

- ・利息返還関連引当金については、近時沈静化の気配はあるもののより保守的に積み増しを実施
- ・貸倒引当金については、保守的に追加計上
- ・投資有価証券については、第3四半期末での時価評価に加え、それ以降のマーケット動向もふまえて保守的に対応

##### 3. 人員・店舗の見直し、資産の圧縮（第3四半期実行済）

- ・希望退職の実施により335名が退職（従業員の約1/3）、来期以降年間20億円程度のコスト削減可能
- ・22店舗体制（2007/3末）から10店舗への集約化を実施し、来期以降年間2.2億円程度のコスト削減可能
- ・投資有価証券（未上場株式を含む）7銘柄79億円を売却し、B/Sの健全化を促進

#### 今後の戦略について

##### 1. 事業の選択と集中 — リスク管理の徹底、より収益性の高い事業へ経営資源を投入

- ・専門性をさらに強化し、B/Sの負担を軽減する形での不動産関連事業強化
- ・事業者向け金融事業の効率化による収益性改善、フィービジネスへの注力
- ・中国事業については、これまでの先行優位性に加え、資本増強等によりさらに成長を加速
- ・上場サービサーとしての競争力を活かしたソーシング拡大、投資手法の多様化を推進
- ・その他アジア太平洋地域でのTPGとの協調を通じた展開

## 2. TPGの資本参加による経営力強化

- ・より洗練された信用リスク等の管理プロセスの導入等、グローバルな金融業界におけるベストプラクティスを活用
- ・アジア全域及び世界に構築された、金融業界におけるネットワークを利用

## 3. グループの再編等による経営効率化も検討（下表の数値には未反映）

### 目標とする財務指標

B/Sの健全化及びコスト削減により、安定的に収益・利益を出す体質に回帰し、来期に黒字化を実現。

(連結数値)

(単位：百万円)

	2006年3月期 実績	2007年3月期 実績	2008年3月期 見通し	2009年3月期 目標	2010年3月期 目標	2011年3月期 目標
総資産	350,861	403,880	296,000	266,000	313,000	348,000
営業収益	60,991	88,152	87,500	61,200	65,800	82,700
経常利益	12,785	9,323	-7,500	5,000	7,800	10,700
当期純利益	9,033	8	-30,000	4,600	7,200	8,200
自己資本比率	22.8%	20.5%	23.3%	27.8%	26.1%	26.6%
ROA	3.1%	0.0%	-	1.6%	2.5%	2.5%
ROE	12.4%	-	-	6.4%	9.2%	9.4%

(ご参考)利息返還損失関連コストを除いた場合の経常利益

13,375      12,747      4,500      以降、PL追加負担なし

※日新租賃については、2008年3月期以降連結対象からはずれ、持分法適用関連会社になる前提にて試算しております。

なお、詳細につきましては、当社ホームページ (<http://www.nisgroup.jp/>) よりご確認ください。

以上

<本件に関するお問い合わせ先>

N I Sグループ株式会社

(I R 広 報 部)    03 - 3348 - 2417